

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500328		
法人名	株式会社笑顔いちばん		
事業所名	グループホーム笑顔いちばん各務原		
所在地	岐阜県各務原市蘇原新栄町3丁目6番		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=2190500328-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを尊重して生活して頂いています。日々笑顔が生まれるよう、職員と利用者の関係作り、ご家族との関係作り、利用者とお話を多くすることを心がけています。また、平行棒や、リラクゼーション器具を取り入れ気軽に身体のケアが出来る環境を作り、健康寿命を延ばすことでいつまでも元気で、自分らしく生活が出来るよう支援をさせて頂いています。共用スペースを広く取り、落ち着いてゆったりと安心した生活が出来るよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、まもなく開設3年目を迎える。玄関に職員の顔写真と名前を掲示し、来訪者に分かるようにしている。共用スペースは広く、掃除が行き届き、清潔感がある。生活機能改善室があり、機能訓練に加え、柔道整復師による歩行訓練など、個別にリハビリを行っている。毎月、ハーモニカや大正琴、フラダンスなどのボランティアの訪問もある。食事やおやつは、職員の手作りで提供されており、流しそうめんやクリスマスのバイキングも好評である。管理者は、職員が働きやすい職場環境作りに努め、職員と共に、常に利用者へ寄り添いながら、地域に根差した笑顔あふれる事業所として、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社理念の「笑顔づくりは街づくり」をめざし御利用者ファーストを意識して毎月個人目標を掲げ実践しています。	理念は玄関や休憩室に掲示している。ミーティング時には理念を確認し合い、共有している。社名のように「笑顔」を大切に、日々利用者に寄り添いながら、利用者主体の姿勢で支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動などに参加し、地域の方との交流に努めています。御神輿は利用者様も駐車場に出て見物しました。夏祭りなど施設の行事を回覧板などでお知らせし参加をお願いしています。	地域の自治会に加入し、職員が清掃活動に参加している。事業所の夏祭りには、住民に参加を呼びかけるなど、地域との交流に努めている。近所のスーパーマーケットやコンビニ店に利用者と共に出かけ、住民と言葉を交わしながら、地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談や見学などに来られた方には認知症の人への理解や、グループホームについての説明をさせて頂き、認知症の方への理解を深めて頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で参加して頂いた方に施設の取り組み等を報告をし、アドバイスを頂いてサービスの向上に活かすように努めています。	運営推進会議には、行政や自治会長、民生委員、家族が参加し、事業所の運営状況や取り組み内容を報告し、ヒヤリハットや事故報告、課題点等について、積極的に意見交換し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の担当者と連絡を取ったり、運営推進会議に参加して頂いたり、協力関係を築くよう努めています。困難事例な件は包括に相談したり医療と連携を取っています。	行政とは、困難事例を相談し、助言を得るなど良好な協力関係ができています。地域包括支援センター主催の勉強会には、毎月管理者や職員が交代で出席し、内容は全職員で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルに基づき勉強会を実施しています。利用者の尊厳を害さないケアに努めています。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、言葉の拘束についても学び、言葉による行動の制限や、不穏になるような言葉を使わないよう話し合い、実践している。また、3か月毎に、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体観察を行い、変化があれば職員間で報告し合っています。報告を受け、確認を行い、虐待への防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者が権利擁護研修に行き施設内での勉強会を実施しています。事例等で検討をしながら必要性を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族様に納得してもらえたか確認しながら契約を行っています。また加算等で料金等が変更になった場合や契約の変更があった場合は再度ご家族に説明を行い、同意をとっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見をお聞きし、意見をまとめ、反映し、取り組んでいます。変更した点などは運営推進会議などでご家族に報告して運営に反映しています。	家族の来所時に、意見や要望を聞いている。来所が難しい家族には、自宅を訪ねて直接話を聞くこともある。年に1度、家族の満足度アンケートを実施し、結果を運営に反映させ、家族との信頼関係に努めている。玄関には意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月定期的に行い、運営状況や、職員の意見や提案を聞き取り、反映しています。またご家族へのアンケートも実施し、年度の方針に反映させています。	管理者は日頃から職員の意見や要望を聞いている。毎月の定例ミーティングの場でも、職員の意見を吸い上げ、運営に反映させている。職員の自主性を尊重した人材育成にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てるように自己評価を実施し、定期的に面談を行い個人の努力の把握に努めています。また行事を企画してもらうなど役割を持って頂き、各自が向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に行い、職員がスキルアップが出来るように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流できる会に参加し、同業者と話ができる機会を作り、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者、ご家族の不安の軽減に努めています。ご家族に施設の説明を行い、入居後も安心して頂ける関係を作るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面談、契約時、入居時には特に配慮し、利用者、ご家族へ要望や不安等に耳を傾け、一緒に生活できる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族、職員と密に連携を取りながら、何を求めているのか、どうしたいのかなど必要なサービスを見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が何が出来るか把握し、残存機能が最大限発揮できるよう努めています。また趣味等を把握し、一緒に家事などが出来るよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族にも出来るだけ一緒に参加して頂けるように毎月お知らせしています。施設に来所された時は利用者の様子を報告し家族の話も聴いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人にお越し頂いたり、ご家族に外出、外泊を進めたりと声掛けをさせて頂き支援しています。	家族や親戚、友人の訪問時には、再来の声かけに努め、友人からの電話を取り次ぐなど、利用者の馴染みの関係継続の支援に努めている。職員と一緒に自宅を見に行ったり、家族と共に美容院、買い物、墓参りに行くなど、馴染みの場所へも出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話題を作ったり、他利用者に声をかけて、話ができる環境を提供できるように支援を行っています。集団体操・レク・製作活動など利用者皆で取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があったときは誠意で応えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が何を求めているのか、スタッフ全員が利用者寄り添い希望、意見の把握に努めています。一人ひとりの意向を尊重できるよう職員本位にならないよう努めています。	利用者の思いや意見は、日常生活の中で聞き取ったり、思いを汲み取ったりしながら、把握に努めている。困難な場合は、家族から話を聞いたり、「申し送りノート」を活用して本人の情報を職員間で共有し、利用者本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を本人様はもちろんのこと、担当ケアマネージャー、利用していた施設や家族から収集し 現在までの生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当スタッフ中心に皆でアセスメントを行い、現在の状況、心身状況の把握に努めています。また常に変化がないか日々の情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づき 現在の支援方法について検討し、計画書を作成しています。	定期的に、担当職員がアセスメントシートで本人の思いを聞き取り、医師や薬剤師、家族の意見を取り入れながら計画を作成している。利用者が、生きがいややりがいを持てる暮らしができるよう、一人ひとりの目標を組み入れた計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日常記録・機能訓練実施記録を毎回記入し実践・結果・見直し等を行っています。ユニット会議を開催し個別支援の情報共有や計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者・家族様の立場にたってサービスや取り組みを提案したり多職種間の連携を図る事によって偏りのない支援に努めています。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご友人の面会を大切にし、利用者が暮らしを楽しめる様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の医師や訪看、家族連携・検討等を密に行い、適切な医療が受けられるように支援しています。	契約時に、今までのかかりつけ医が選択出来る事を説明し、往診を希望する利用者もある。協力医は月2回の往診があり、訪問看護師とも24時間体制の連携がある。柔道整復師によるリハビリも週2、3回行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、看護師(訪看)と情報を共有し、利用者が適切な医療が受けられるよう支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはフェイスシートを提出し、情報の提供やケースワーカーとの情報共有・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における(看取り)指針に基づき契約時に説明し、同意を得たうえで支援を行う体制を取っています。利用者・家族・医療・施設というチームでケアに努めている。	契約時に、重度化や看取り介護に関する説明を行っている。今年、医師と看護師、職員がチームとなり、家族と共に看取った事例がある。終末期には、家族の宿泊も可能とし、利用者の尊厳を守りながら、その人らしく苦痛のない支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、事故発生に備えてマニュアルを作成し 定期的に訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路や自動通報装置等の使い方の確認を定期的な訓練で行っています。	年2回の避難訓練は、消防署立ち会いの下、利用者の避難誘導と、消火器やAEDを使った訓練を行っている。今年の台風時には、浴槽に水を貯めたり、懐中電灯を準備した。夜間想定訓練や備蓄品の準備、地域住民の協力依頼等については、検討中である。	今後、夜間を想定した訓練の実施や、自治会と地域住民の協力を得られるよう、避難訓練への参加を呼びかけ、協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格の尊重に努め、言葉掛けなどに注意して支援を行っています。	職員は、常に「居室はプライベート空間である」として、対応している。名前の呼び方も工夫し、その人に合った呼び方を心掛けている。事業所は男性利用者が多く、性別にも配慮した支援方法に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人の意向、自己決定が出来るよう働きかけをし、選択が出来る声掛けを意識しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の想いを第一に考え、職員側の都合に合わせるのではなく、あくまでも利用者のペースに沿った生活を送れるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には職員が服を選択できるよう提案をしています。また理髪店で好きな髪形にできるよう希望を聞き支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の好みを把握し、食事に反映されるようにメニューを考えています。準備や片づけ等、出来る事は行ってもらっています。	食事は、食事の形態やアレルギーなどを考慮しながら、職員が手作りしている。利用者も、テーブル拭きや下膳、食器洗いなど、出来る事を手伝っている。イベント食は利用者に希望を聞き、夏の流しそうめん、クリスマスのバイキング、すき焼きなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態、水分摂取量(1日1000cc以上)等、常に把握し、家族とも話し合い、適切な食事の提供に努めています。自己で食べてもらえるように食事の形態や食器なども工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、残存能力を生かし、口腔ケアに取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促しながら、おむつ等極力使用しないように努めている。排泄のパターンを把握し、状況に応じて声掛けや、自立の支援に努めています。	利用者の大半は、声掛けや誘導により、トイレで排泄ができている。個々の排泄リズムや移動するタイミングで声掛けをするなど工夫をしている。夜間は、ポータブルトイレを使用する人もある。パッドの使用軽減について、家族と相談をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設の医師や薬剤師と相談し服薬でのコントロールや排泄周期を把握し、状況に応じて腹部マッサージや、飲食物を選択して支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意向を聞き、入浴日を決定しています。可能な限り利用者の意向を聞き、入浴形態も考慮しながら支援に努めています。	個室と機械浴を備えており、週2回の入浴を基本としているが、時間帯や状況に応じて柔軟に対応している。利用者の好みのシャンプーやリンスを使用したり、入浴剤やゆず湯・しょうぶ湯など、季節の湯を楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンに合わせ、自然に睡眠がとれる様支援している。室内の温度調整・湿度等毎回意識して行い、快適に睡眠がとれるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報に確認し薬の副作用、用法容量の把握に努めている。症状の変化には十分確認するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・皮むき・水やりなど「出来る事」「やりたいこと」に視点を向け支援に努めています。天候の良い日は出来るだけ外出できる時間を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物等定期的に戸外へ出る支援をしています。不定期ですが、ドライブ・外食などを企画し行っています。	天候や利用者の体調に合わせ、散歩や買い物に出かけている。近くの公園を散歩した帰りに喫茶店に寄るなど、外出に楽しみを加える工夫をしている。事業所の建物の周りやウォーキングスペースで、リハビリを兼ねて歩いている。	日常的に戸外へ出かけているが、利用者の行きたい所を把握し、外出につなげる取り組みや、個別の外出支援にも期待したい。

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設が金銭(預り金)に関しては管理していますが、買い物時には支払いは利用者にて行ってもらうように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があるときには電話を掛けたり取り次いだりしています。手紙を出したいという時も便箋等を用意し支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は利用者が使いやすいように配慮し、極力障害物がないようにしています。利用者とともに季節感の出る作品づくり等を作成しています。	共用スペースは、掃除が行き届き、清潔感がある。食事の準備が始まると、調理する匂いが漂い、家庭的である。利用者の作品も飾っている。ソファでテレビを見たり、新聞や雑誌を読むなど、自由に過ごしている。ホームの花壇には季節の花を植えたり、野菜作りもしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者、ご家族の要望に沿って環境作りを行っています。ペットや家具等の配置も趣向に合わせています。テレビの前やテーブルに利用者が集まって穏やかに過ごせる環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族と話し合いながら居室作りを行っています。ご自宅で使用していた家具や備品を持ってきていただき 落ち着いて過ごして頂けるよう、都度部屋の模様替え等も行っていきます。	居室は利用者や家族の意向を重視し、ベッドやタンスも自由に配置している。また、自宅から馴染みの物を持ち込み、居心地よく落ち着いて過ごせる居室づくりを行っている。職員が掃除をまめに行い、衛生管理に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を活かし、機能訓練も行うことでADLの維持・低下防止に努めています。過剰な介護は行わず、自立支援に基づいた支援に努めています。		